



日本百將傳一夕話

二

~ 13  
3566  
2





門 13  
號 3566  
卷 2



日本  
將傳一夕話卷之貳

東都

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

大村高朴阿大  
伴國市市部伴伴  
吹男皇田比狹金  
負依子夾羅手村

目錄

津夫彦

寺



松亭金水謹撰

百將傳一夕話卷之三

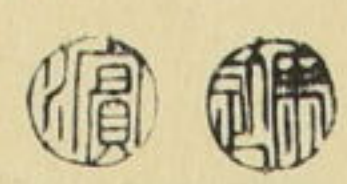
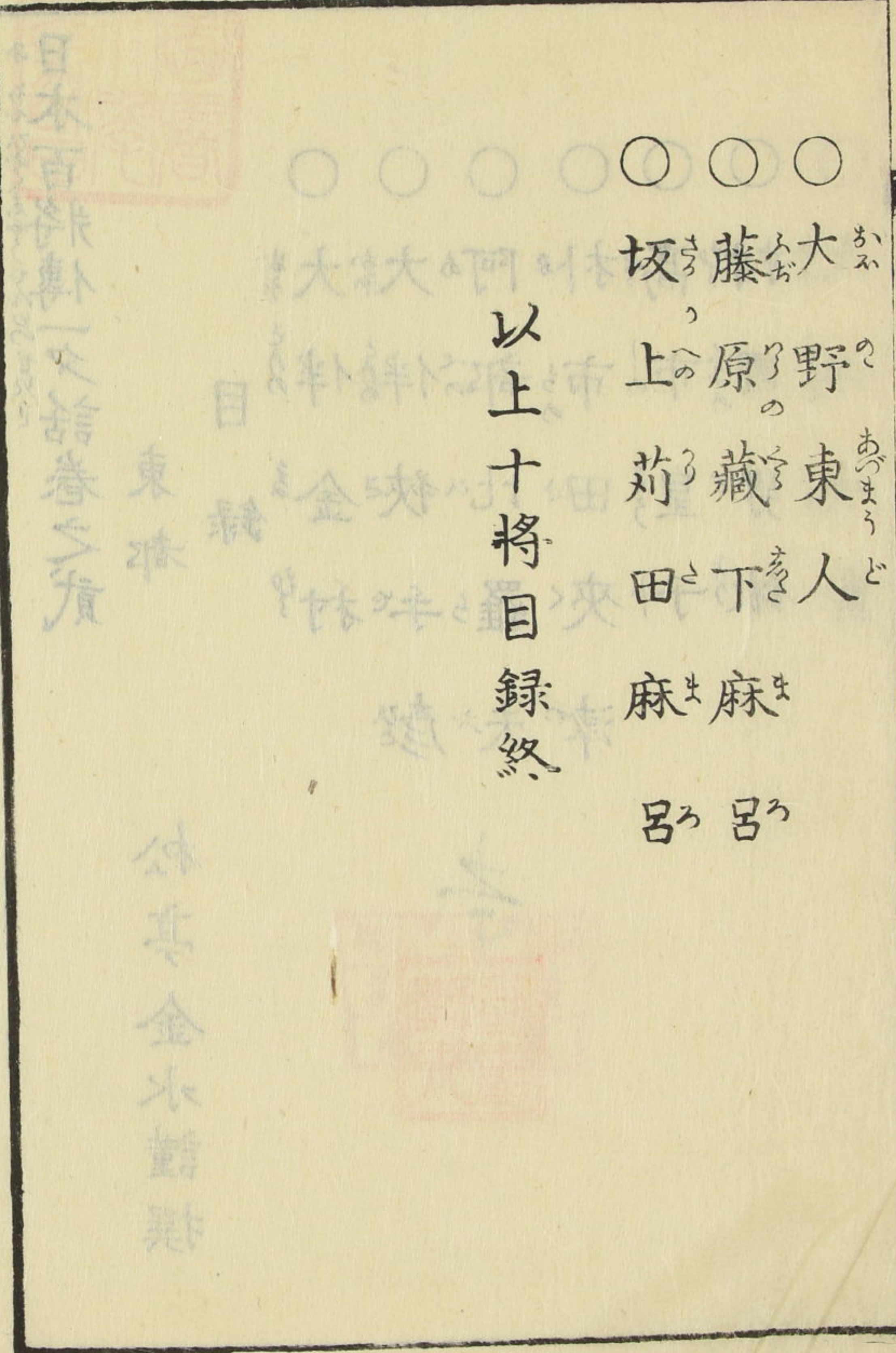
群玉堂藏

早稻田大學圖書館  
34.6.3  
藏書



○大野東人  
 ○藤原藏下麻呂  
 ○坂上田麻呂

以上十將目錄終



天忍日命之裔  
 道臣命七世之孫  
 大伴武以連  
 仲哀神功小仕  
 其子大伴室屋連  
 其子金村多

大伴金村

人皇二十七代 繼體天皇の御人  
 今嘉永六丑と 千三百四十年成

大伴金村者 仁賢天皇晏駕之

後誅平群真鳥及其子 武烈

即位以為大連其後迎 繼體天皇

于越州而立之

金村其鳥の物語ハ既小近曾印行ト世ハ行クトクニシテ也。波ハ元来我  
 作ト文ヘテ所謂蛇足多クシテ今ノ編ハ其記ヲ摘テ聊ハ戲言ト雜ヘテ



大伴金村の話

へり 眞鳥の武内宿禰の孫木菟宿禰がまゐり。其為人聰敏なるより。推尊帝位  
 平群 眞鳥の武内宿禰の孫木菟宿禰がまゐり。其為人聰敏なるより。推尊帝位  
 即ち及び大臣とす。故の如く。天皇屢早世し御世數換は成りて  
 の三朝お仕え。大臣とす。故の如く。天皇屢早世し御世數換は成りて  
 いよく猶奢増長し。竟小皇統と致つて。帝位お昇らんとす。の崩あり。太子の  
 為小経堂と陽り。坂本宮と建て自らその宮中お居て。万機と掌りて必政と爲り  
 太子もことと悟り。威権をんともす。太子も物部麁鹿火大連の女。影媛と  
 りるあり。容貌殊ふ麗く。太子も笑ひて。百の媚あり。太子もことと祝て。公悦び。妃と  
 るさんと。謀人とりて。影媛お世り。影媛は。眞鳥がまゐり  
 輔と物たり。他念のあまじう。太子の命お背らる。獨ひと。太子もことと祝て。公悦び。妃と  
 身と。此まて。命を。人の實も。驚懼け。太子もことと祝て。公悦び。妃と

市巷のえまうさん。太子もことと祝て。公悦び。妃と

按ふ。その時。其家小馬と。同おきて。激不應。そのり。の。太子もことと祝て。公悦び。妃と

寮あり。その小官馬と。同の例あり。然る。太子もことと祝て。公悦び。妃と

真鳥。そのうち。領掌し。脱小官馬。ハ。誰あり。同。太子もことと祝て。公悦び。妃と

久。馬と。執ら。太子もことと祝て。公悦び。妃と

立て。新張。衣の袖。と。曳。太子もことと祝て。公悦び。妃と

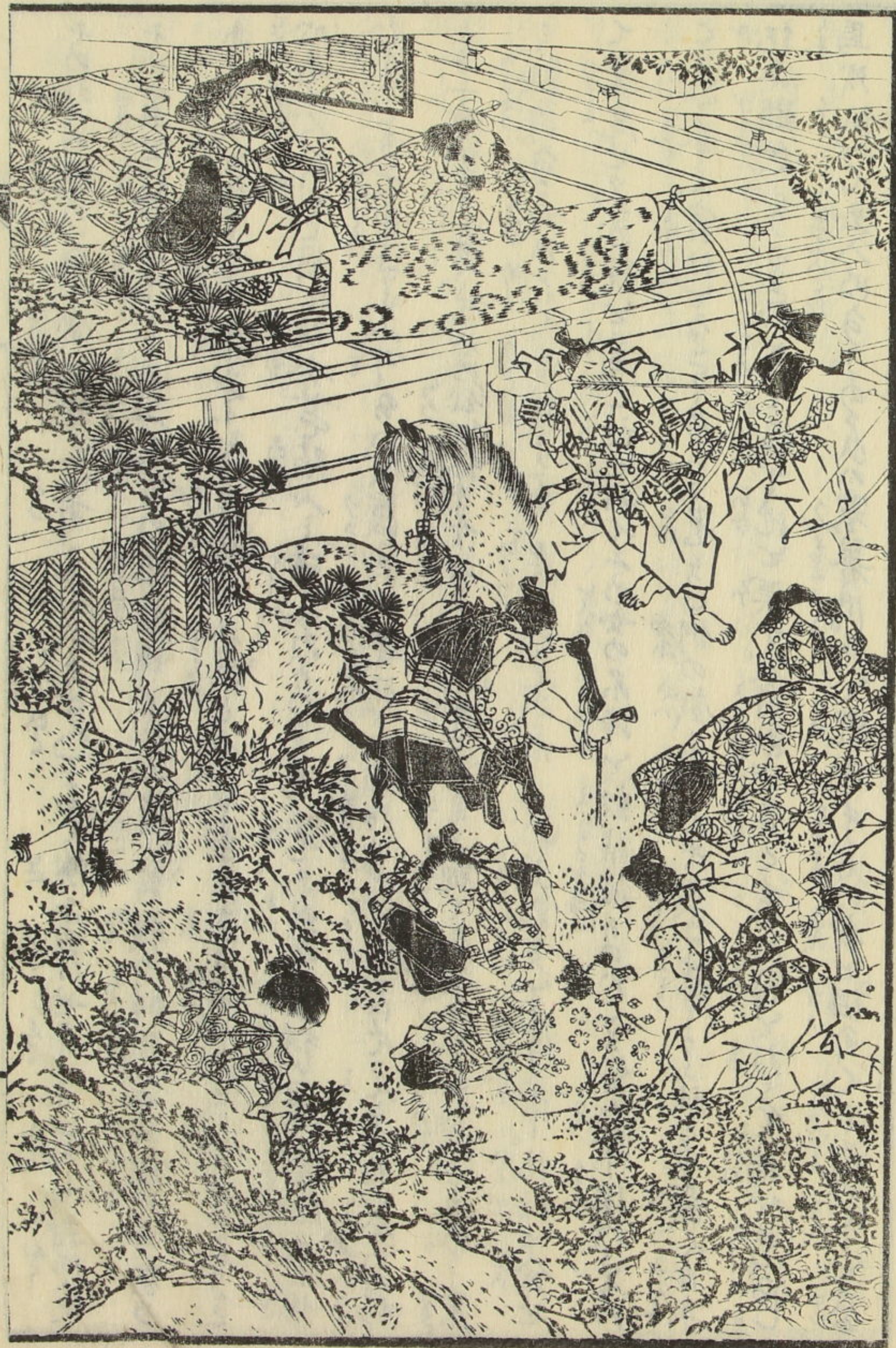
按る。歌場。との。性。古。書。太子もことと祝て。公悦び。妃と



夫のとき三平群の駒未也。この容成入て大不憤之中不立りてこと以排つたふの両  
 個が情態をなすに戲ふとありやと思さるるに歎と化して御下あふ不駒も二見不答  
 ろうあり。倅長けまばらぬ載む屢借答と做しあひて容不駒が歎援ふ  
 通せしことと曉りあひ。そのまふ此処と云て金村が宅不往也。美鳥父子僭上あへ  
 竟不朝家成傾けんとい迷ふ儀ふ多と即時不千珍の兵成突して影援が宅と  
 藝ふ駒の暴のとりん防ぐべき兵もあけまばら一挙あへ珠せまらり。かくん金  
 村言をていらく大子の命不後ひて則駒と珠しう。美鳥の工を及むる渠も  
 らび兵と後ん。その仇と撃んとまへし。そま兵の神速と貴ぶ渠も倅の救ふぬまふ  
 攻上をるバ勝利ありて玉成と亡り多んと破ん大子由歎びあひ控まらぬ千の軍  
 と倍く也ふ美鳥が弟不あまら。美鳥の権勢傳えさる秦の趙高漢の世の王莽不  
 日猶起しまへ一門所後多しとのども。倅不也ふ登りまへ如何と由詮方なく宿

軍の爲不歎せしと子弟及び宗統の從臣悉く誅せしとてさうの國城と一  
 時不滅亡不及びしと偏不金村が功績あり。新に金村大子不對ひ先帝 億計  
 天白王の皇子を陛下の他不あへ殊不較年換行もて天下万民を悦ませ城  
 后と平げあふ雅うのこまと作ごん。然まは位不即あひて海業を知らめせ  
 と三種の神宝と献つ。さふ新に有司不命ト。泊津到城不壇場と設け。位不即  
 めひて都とさふ定めあひ。金村連とりて大連とせらるる。あへ 天皇の性質  
 剛強不まりしん。その詔を自ら聽刑罰するものあり。あへ必出てことと後あへ。是不  
 遠逝の民を忍む慄とて。身と安むるのあり 天皇屢殺戮とほ。あへ  
 辱める婦の腹と割せし胎中不児の舍る親と祝ま。一内人成捕へ改髪と髪を  
 めく抜ん。樹上不界し。根よりその樹と伐倒し。樗びて死まらぬ笑ひあへ。あへ人  
 と赤條とあ。漲る水不溜い。浮つ沈る漂ふ所と三陵も倅とさ伸べその腹





百子傳

四

羊



武烈帝  
兒勇  
親  
刑罰を  
覽み人

百子傳

群玉堂



その背の搦ひあり。突彼里て樂しむ。人々を多し樹小界せ。个より自ら射墜え  
 その宮と祝て樂しむ。笑ふ是昔の悪業傳え。廣くの般の紂王を妬妬の勅め  
 小より人を殺して共樂する。その果勢お彷彿とて哀まらる。滅びんと。近きおありと  
 心ある人へ月と目と祝合せ。陪ふに儀らぬのあり。是お於て金村大連屢々入て  
 む。ごも天皇さ。小可あり。後大連以下老臣等と遠ざけんと。人々をわらわら  
 と。十人さ。やう。あ。ご。公と。恨ます。あり。かくて悪業目。夜。小長。あ。ひ。式。と。さ。ら。う。さ  
 く。輕盈。の。女。狐。召。ん。赤。條。と。り。平。板。の。う。小。盾。の。馬。殺。多。と。幸。未。也。北。社。と。合。せ  
 て。草。尾。せ。の。の。貌。と。爲。と。祝。せ。れ。ん。の。女。の。不。淨。と。祝。儀。儀。の。の。と。と。と。教。の。儀。儀。の。の。  
 と。と。と。奉。入。官。仕。と。さ。さ。め。ら。る。是。ま。ご。何。の。戲。ふ。と。さ。更。小。突。し。う。後。ご。載。入。日。本  
 紀。小。頭。然。り。と。さ。さ。死。と。遠。池。と。渠。と。禽。獸。と。多。く。高。ひ。將。と。好。と。狗。と。を。し。  
 馬。試。へ。て。出。入。内。あり。あ。る。ひ。寒。暑。風。雨。と。避。む。と。の。夜。と。温。め。ん。万。民。の。家。と。奈

せ。び。も。ご。小。美。と。と。合。ひ。て。天。下。の。仇。と。忘。ま。る。小。倭。倭。倭。傷。と。衆。く。器。之。輝。慢。の。樂。と  
 たり。奇。偉。哉。ふ。と。好。と。る。ひ。と。夜。と。あ。く。日。と。あ。く。官。女。と。俱。小。欣。宴。り。綿。繡。の  
 席。猶。是。と。せ。び。の。宮。を。く。言。治。小。絶。せ。り。かく。天皇。の。八。年。及。び。十。二。月。小。崩。し  
 ろ。小。慈。る。小。い。ま。ご。太。子。何。と。と。立。て。る。君。と。と。と。諸。卿。會。儀。通。と。あ。る。小。倭。彦。王。の。出。丹  
 波。の。桑。田。小。あり。這。い。仲。哀。帝。五。世。の。孫。あり。と。と。と。迎。へ。奉。ら。ん。と。大。小。車。駕。と。設。け。振。ひ  
 飾。り。と。丹。波。小。到。り。倭。彦。王。と。と。と。祝。て。い。ま。ご。の。意。と。知。ら。大。小。忍。と。と。色。儀。失。多。ひ  
 小。聲。より。遁。ま。て。と。と。と。皆。あ。る。所。と。と。と。群。臣。大。小。望。儀。失。多。ひ。然。ら。ば。三。小。小。坐  
 と。の。小。男。大。迹。王。次。迎。へ。ん。と。と。と。三。國。と。作。て。振。く。と。の。男。大。迹。王。ハ。應。神。天。皇。五。世。の  
 孫。也。と。彦。王。人。王。の。子。也。母。ハ。三。國。の。振。援。と。の。幼。少。く。と。父。王。と。喪。ふ。振。振。大。小。款。三。小。小。以  
 抱。と。と。故。々。三。國。へ。歸。せ。と。小。表。以。奉。つ。然。る。小。威。長。賢。く。ま。り。士。と。屯。一。意。難。う。り  
 小。年。積。り。て。の。ゆ。へ。五。七。小。あ。る。せ。の。小。然。る。小。一。日。必。ひ。り。ず。也。車。駕。遙。小。ち。向。小。倭。の











按さ小佐用振良人の別とを恨み小登下船と瞻望向遠小隔ふおふ人領巾で揮  
くうち振き竟ふ化しん石とあつと。その志最情むべ。然まこと人化しん石と  
あつと志不審し。ま其山と号し巾振ふくは古代へかるとふより地名小  
負まの常あまとも。郷人ことと情とを神小祀する人内其の上あて空ま  
あり。奇異あるてありしふ。事蹟詳小知ま。松浦佐用振石魂孫と取  
しる書あまとの例の戯化あまの証とあま。巾振ふと佐用振官の今現小在  
侍所か。その山の名とまより記るも。猶古くよりいひ傳えたり。既小万葉集の  
ふまの人名つとま。非妻息ふ。ひとよりよりあまの山の名」とま。めま。記と  
ま。ま。ま。

阿倍臣の其先大  
彦命より出

孝徳天皇の時  
荒田井比羅夫と  
同名異人あり

阿部比羅夫

人皇三十八代 斉明帝の弟の人  
今嘉永六母と 千四百四年成

夷平之 又伐肅慎 獲生羅及其

皮若干

按さ阿部と書紀及び諸書阿倍小化る。あのか獨部の字を用う  
のの心悲く傳字の誤ありん。書紀小引回臣比羅史とあり  
羅の熊の一行あり。本草綱目及び三才圖會等と按さる熊の白熊の畏  
あふん天をえたり。猛獸多力よく樹木と抜く人小遇人のやまてとを撰む  
依呼て人熊といふ。恐む。然まとも湯小属以書とて貳心あふる。小書

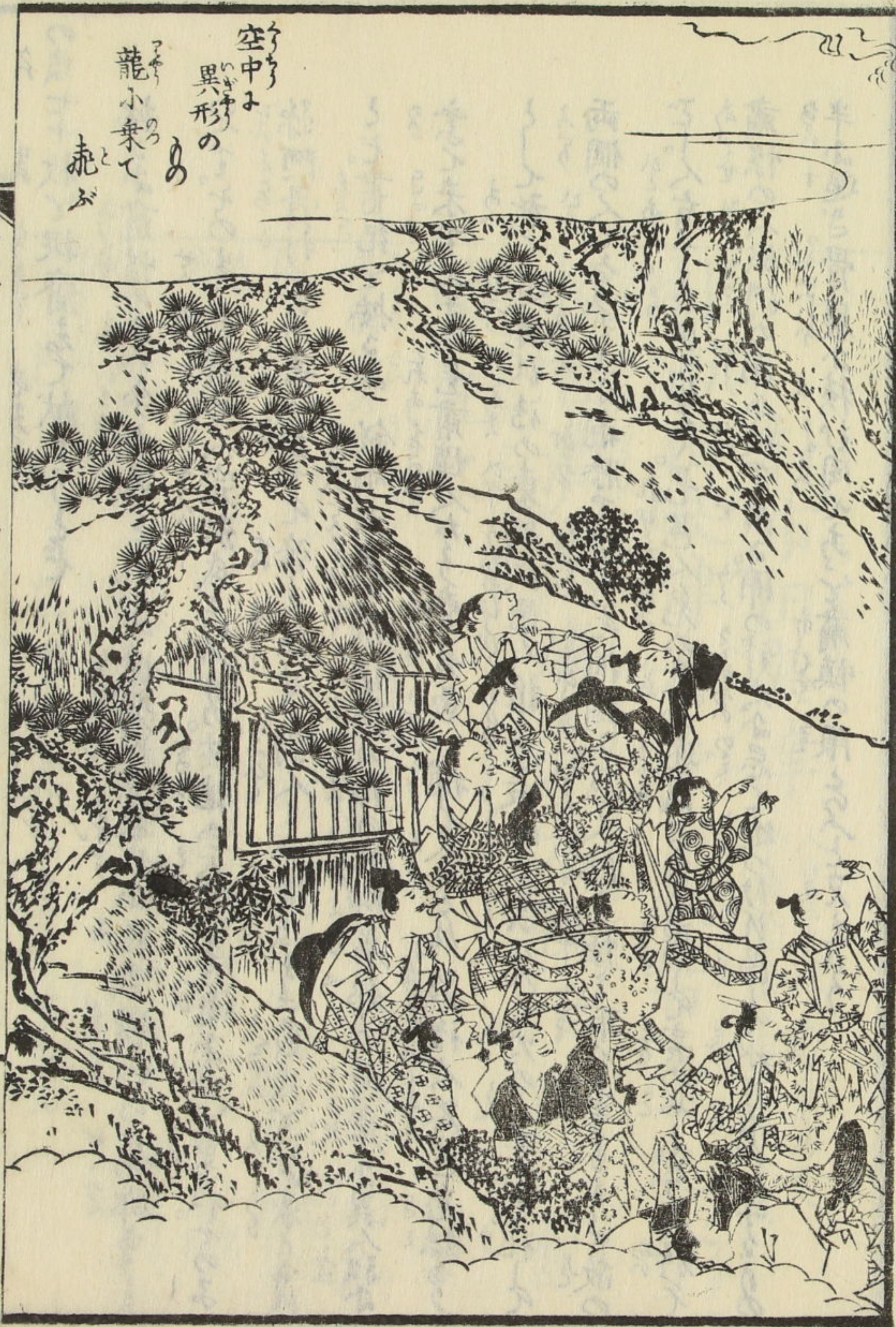


阿倍比羅夫の事

齊明天皇と皇極天皇の重祚あり。伊豫と天豐財重日足姫天皇と云は即位の  
 元年夏五月。殊小異と云あり。空中何方ともなく。龍小字人飛行するあり。  
 その貌唐人の似たり。喜さ油絹の笠と着て。葛城の嶺の方より空池に。騰約ふに  
 臨み。且くあやと午の内及び再住にの松の嶺の上小影いさまより西小向ひに池  
 に入る。その性方と云は。いとこと実一奇多なり。比羅夫の活かたむらさきと  
 此世の國ふよへ。童蒙の活柄とあり。む。さ。ん。の。帝の元年夏月。龍小字人叛く。  
 くと空に。阿倍比羅夫。兵船八十艘と教へ。是と征伐せむ。比  
 羅夫被処ふ。対ひ大兵勢と漲て。攻撃と急なり。あふ於て。鵜田。傳代  
 の二郡の帳。夫ど。大兵。怒怖て。降と乞。但鵜田の帳。本。酋長。その名。因心。前  
 と。人。則。官軍の陣。改。小。未。で。こ。固。より。朝。家。へ。對。し。ち。と。雲。の。心。あり。若。夫

何者。う。總。て。叛。き。奉。つ。つ。と。言。ひ。ふ。り。將軍。征。伐。し。て。下。す。る。人。む。す。の。所。の  
 人民。常。に。弓。矢。と。手。授。る。内。と。食。ふ。と。ね。む。故。小。歎。と。射。る。の。料。あり。勢。と。害  
 心。あ。ふ。ふ。あ。ふ。備。ふ。の。と。偽。る。く。鵜。田。の。浦。小。孫。坐。を。神。の。罰。と。後。人。と。誓。ふ。  
 と。の。り。所。信。實。る。ま。比。羅。夫。則。其。の。罪。と。許。し。恩。赦。と。て。小。乙。上。と。授。け  
 按。る。小。乙。上。と。時。冠。の。制。あり。位。階。の。差。と。定。む。遠。も。孝。德。帝  
 の。四。年。古。さ。冠。の。制。と。廢。し。五。年。改。め。て。十九。階。の。冠。と。制。せ。ら。る。大。德。帝  
 小。乙。上。至。る。ま。六。冠。及。び。初。位。の。建。武。冠。も。舊。制。以。用。わ。る。遠。回。新。制  
 せ。ら。る。処。十二。冠。大。華。小。華。大。小。小。乙。各。上。下。小。分。て。十二。階。古。制。と。合  
 して。十九。階。と。ある。但。その。世。小。博士。高。向。玄。理。小。考。定。せ。め。八。省。百。官。と。定。む。  
 傳。代。津。輕。二。郡。の。郡。領。と。定。め。有。間。の。淡。小。帳。夫。等。成。集。令。て。大。小。答。一。傳。ら。り。ち  
 ける。と。の。ま。より。比。羅。夫。兵。と。率。て。肅。慎。と。付。つ。凱。陣。小。及。び。生。羅。二。之。羅





百將傳一以話卷之二

〇十

群玉堂藏板



百將傳一以話卷之二

群玉堂藏板



の皮七十枚と捉齋を献す

按る小肅慎の女今女真といふ。其地契丹の東北に在り。韃靼の属郡あり。之を先新羅の人完靺婁といふ。其地小倭に遠く世に累ね。その子孫阿骨打といふ者に至りて帝と称せり。國人を鹿皮を以て衣と爲し。孫阿骨打といふ者に至りて帝と称せり。國人を鹿皮を以て衣と爲し。と。書紀と按る。欽明天皇の初依波の禊の北御名部。の倚岸小異人。松小宗て未だ止まら。是肅慎人なり。春夏魚を捕て食し。秋は狩人。冬は鹿を食す。とて教て近侍。比禊の東。禹武邑人。推子を取。精を食し。んと火の上におく。化して兩個の人となり。火上小飛騰。王將を相闘。邑人深く怪し。取て重どむ。ま。故の。人有り。占ひてい。是邑人鬼の爲。小迷惑。すると。果ては。言の。め。と。小。於。肅慎の人。涑河の浦。小徒。居る。浦の。村。大。小。忌。て。近。づ。け。び。濁。り。て。水。を。吞。み。死。する。の。半。小。過。ぎ。骨。巖。小。積。む。因。て。あ。と。肅。慎。の。隈。と。い。ふ。と。又。え。と。り。

朴市田夾津

人自三十九代 天智帝の時の人 今嘉永六年近 千九百九十六年 成

朴市田夾津者受

天智帝之命

救百濟與唐兵大戰于白江奮

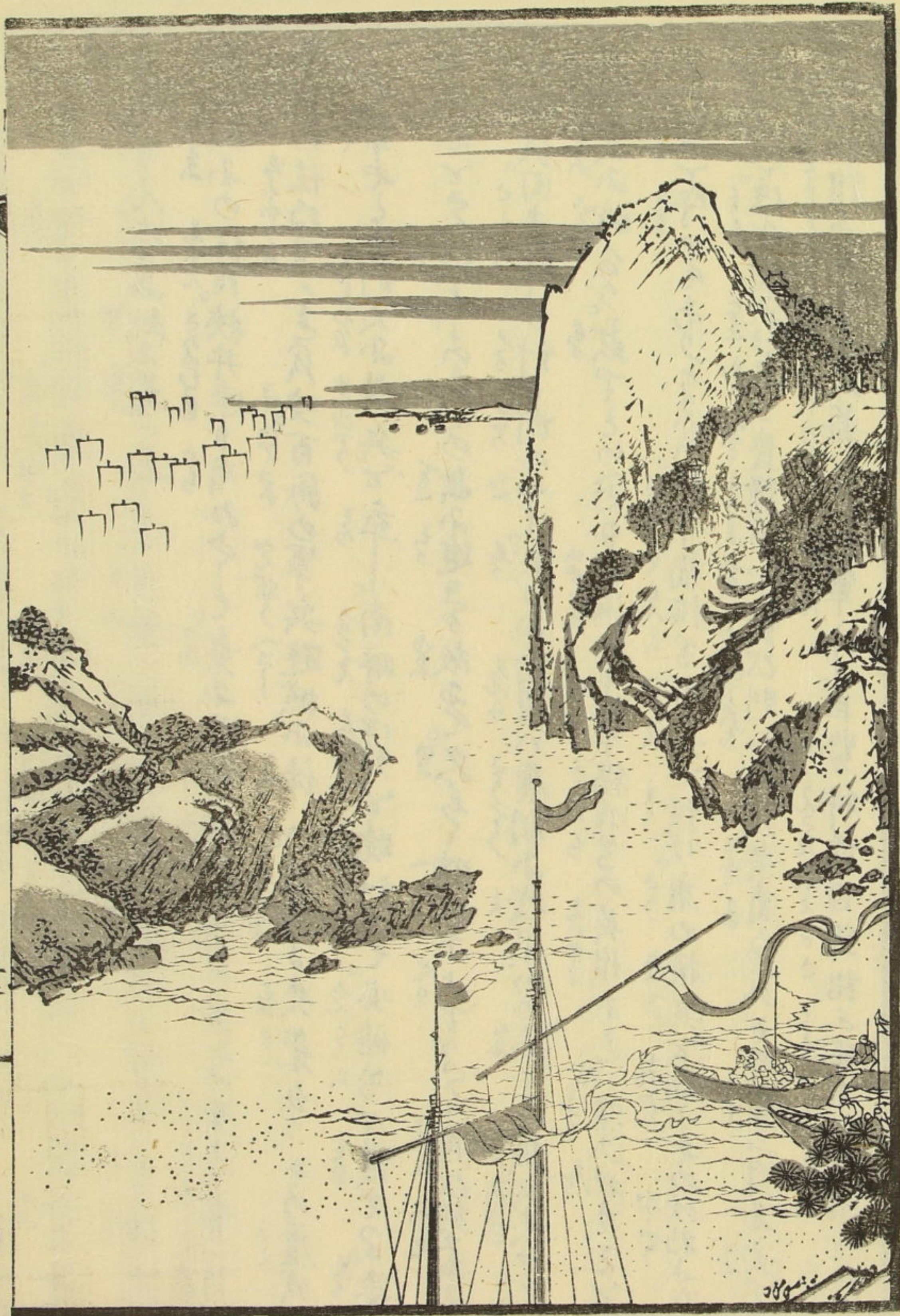
擊死之

孝德帝の紀と按る。朴市秦造田來津とあり。夾と當る。來。小。作。依。へ。又。云。月。帝。の。五。年。古。人。皇。子。獲。我。國。臣。川。堀。物。部。朴。井。連。椎。子。吉。備。笠。臣。垂。倭。漢。文。直。磨。朴。市。秦。造。田。來。津。等。と。謀。叛。し。の。人。吉。備。臣。大。主。中。大。兄。小。弟。中。大。兄。官。和。小。兵。と。授。て。古。人。皇。子。及。び。其。等。殺。と。誅。以。と。云。此。時。田。來。津。何。れ。罪。と。免。う。と。け。ん。





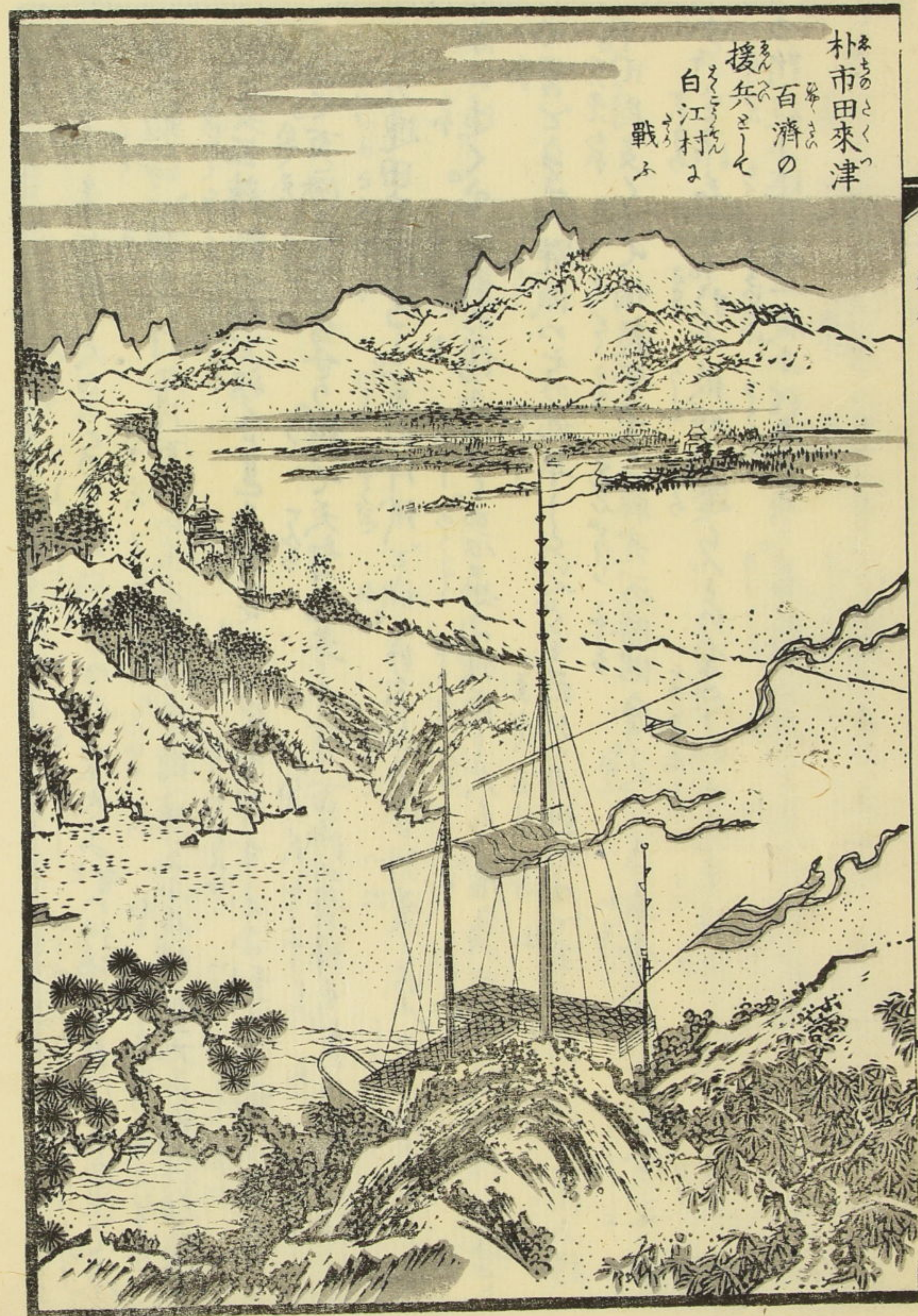




百將傳一久言卷之二

三

洋玉堂藏板



朴市田來津  
百濟の  
援兵として  
白江村に  
戦ふ

百將傳一久言卷之二

君玉堂藏板







小對ひその面小唾を吐て。鷹狗廢奴と罵る。則軍士後へ廻りて。竟おその首を刎て。勿  
 せり。嗚呼豐璋何人ぞ。後前前の聖明王より。朝おはえに忠誠竭し。矢石お中つて。巨  
 害を拒ご。豐璋と日本お逢へ。千辛と背あ苦と凌ぐ。必お功ある。良辰あり。若と倭  
 者の舌次と信し。直小掌と穿ち。華お縛入。殘破殆。祿と深ま。將天平命。平長大  
 息ま。然とたあやいく。復る。困亡び。高兼お走。竟お祖先の祀と勤。実おその  
 智あ。及ぶ。其愚あ。及ぶ。斯く。新羅唐の軍と屢商。緩る。ける。小為。小百  
 濟の為。小次。將る。續守言と斬ら。然と報いて。やあ。と。大軍。以。發。二  
 云。小別。柔と取んと。因。早。く。小。咬。え。け。ま。ま。と。防。ぐ。ん。便。溺。と。る。あ。お  
 ま。日本。の。援。兵。盧。原。居。後。万。餘。人。の。軍。兵。以。率。以。海。と。越。て。來。ると。豐。璋。則。法  
 軍。お。ひ。ん。ず。我。の。白。村。お。出。浪。と。その。援。兵。と。迎。へ。け。ま。法。の。將。軍。を。迎。へ。故。と。防。ぐ  
 の。謀。畧。以。做。し。め。んと。則。白。村。お。出。立。る。海。畔。の。衆。と。或。入。り。や。あ。新。羅。の。猛。將。等。隊。伍。と

倭へお出。て。別。柔。お。至。つ。て。王。城。と。圍。む。誘。へ。期。し。と。る。と。城。兵。防。禦。お。屈。す。  
 と。と。く。考。ず。便。溺。と。多。く。攻。ま。い。城。中。奇。計。と。出。し。て。防。ぐ。あ。お。於。て。勝負。決。せ。と  
 唐。の。援。兵。百。七。十。艘。の。纜。と。解。て。頻。り。小。進。む。白。村。お。至。ると。法。か。の。盧。原。居。後。が。一  
 万。餘。兵。と。出。合。さ。う。互。お。丈。と。と。る。より。楫。と。垂。し。帆。と。却。し。將。械。と。深。く。進。む。近。づ  
 き。ち。舟。を。放。ち。劍。戟。と。揮。ひ。命。と。惜。ま。死。戦。と。り。此。方。の。僅。小。万。餘。兵。故。ち。月。お  
 餘。る。大。軍。あ。ま。は。り。得。小。衆。寡。故。り。か。く。日本。の。援。兵。うち。負。ん。遠。と。引。退。ぐ。  
 唐。の。軍。艦。の。船。先。と。並。べ。堅。く。守。つ。て。拒。へ。り。此。より。早。く。の。咬。あ。う。う。為。小。の。地。へ。來  
 て。し。ある。日本。の。援。兵。あ。ま。未。也。故。の。容。氏。侯。ひ。て。小。勢。あ。ま。は。り。と。勝利。と。失。し。這。回。の  
 既。お。大。軍。と。あ。ま。は。り。の。賊。軍。と。怒。る。吾。と。先。登。し。て。一。操。小。操。潰。さんと。隊。伍。と。空  
 め。故。船。と。月。が。り。繋。つ。る。唐。の。軍。艦。と。と。と。と。彼。故。の。あ。ま。未。也。這。様。と。お  
 乃。下。し。將。の。命。お。後。び。ひ。ん。百。七。十。艘。の。船。左。右。お。用。き。日本。勢。と。中。お。取。替。り。あ。う。と。多

















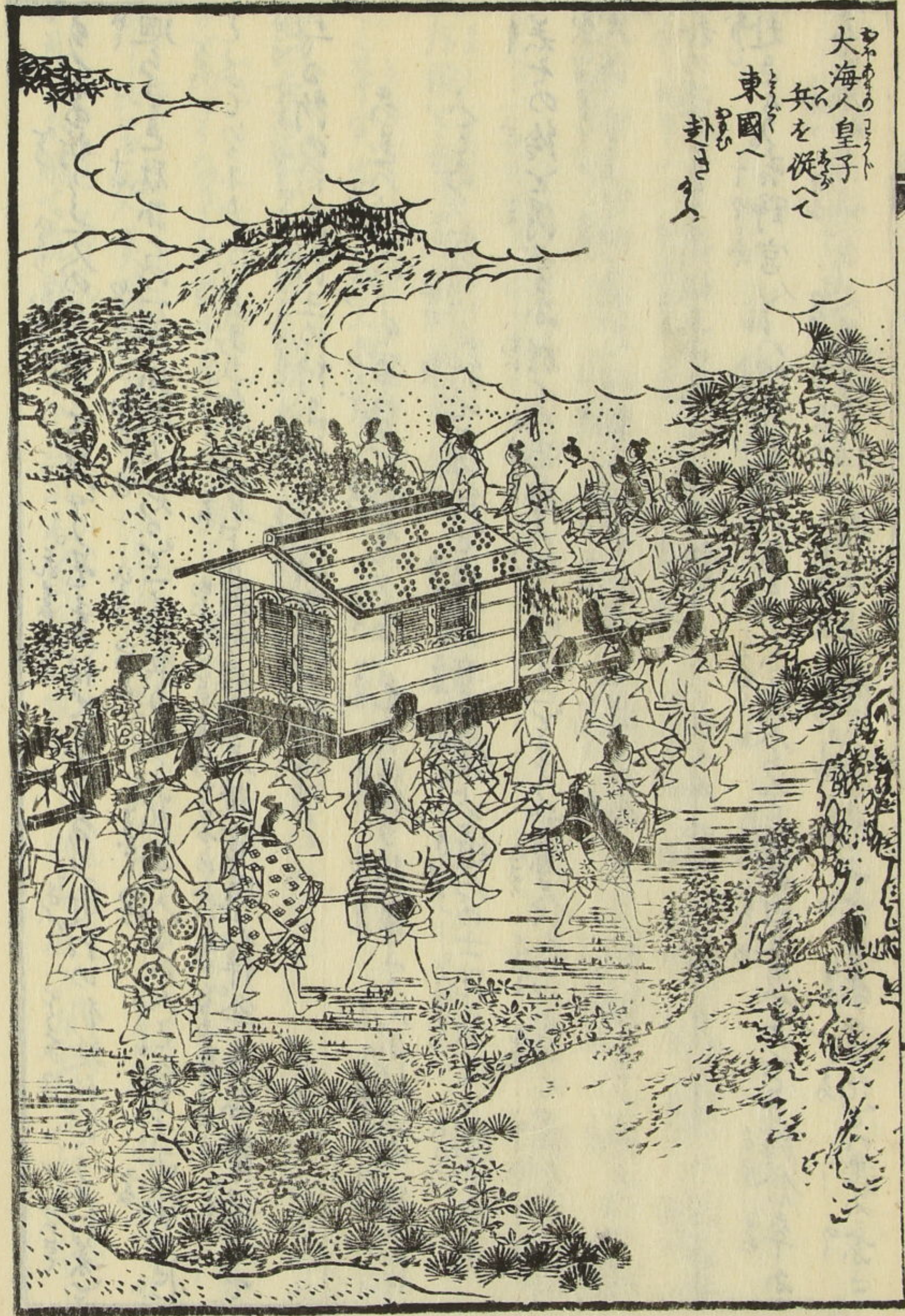




百  
五  
十  
三

〇  
十

群  
臣  
送  
藏  
板



大  
海  
人  
皇  
子  
兵  
を  
從  
へ  
て  
東  
國  
へ  
赴  
か  
る

百  
五  
十  
三

君  
五  
堂  
藏  
板



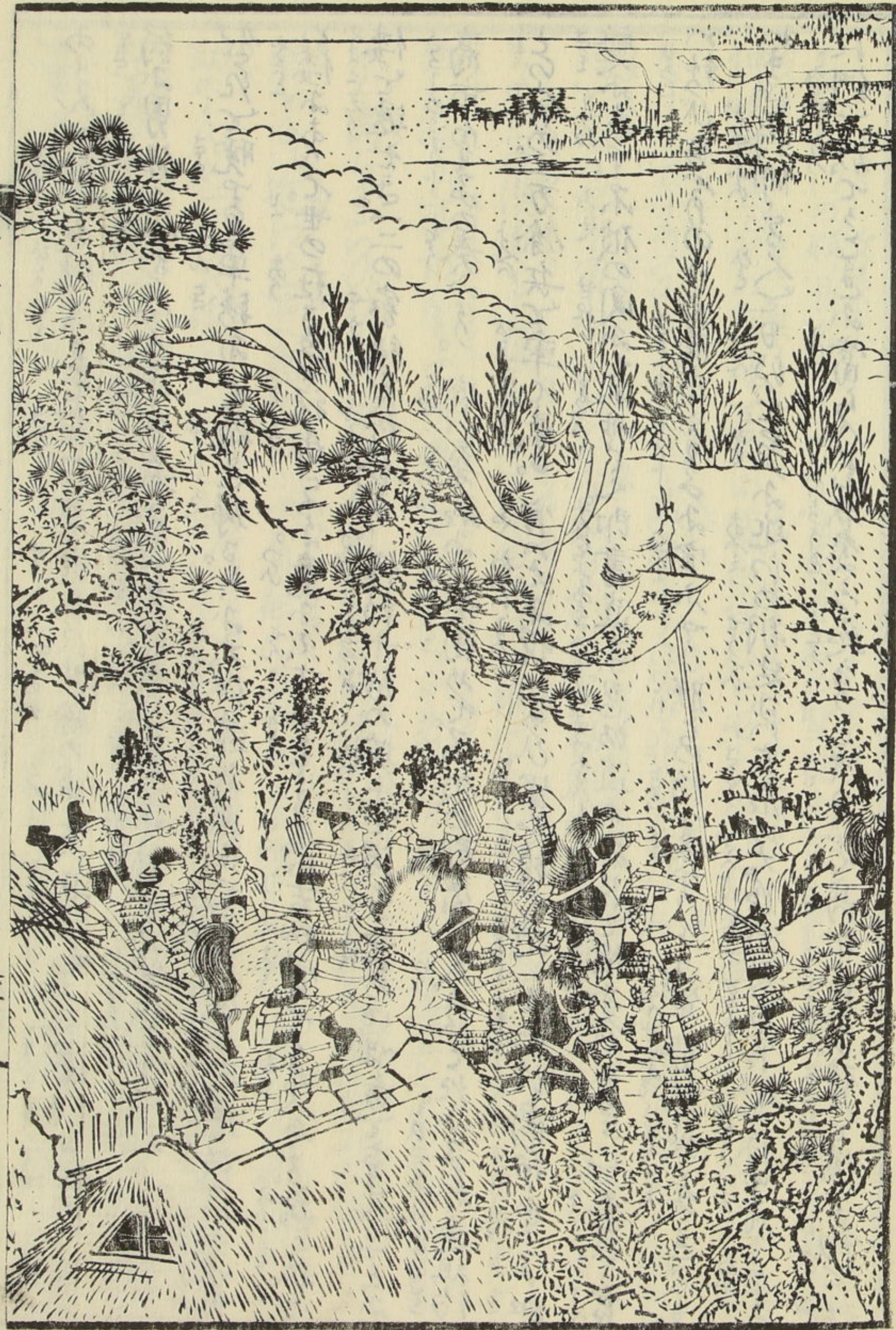




関より使と馳て奏しといふ。山部王石川王未だあひて関不在と。官のあひて路を  
 益人との関不遠ハ益人守りて言ひ申。山部石川の王あはれ大津向ふ小坐あり。則  
 供奉とありぬと。則ちあはれ對顔あり。互ふ去事と歎ひの惠人自とほ不返ひ事と勝  
 四五輩の供あり。かゝる所小村團男依秋馬小宗に馳來て。命小周と美濃の軍兵三千  
 餘人と集集り直不彼の軍と塞がす。かくての討きの來べきやうなり。山公易んたの  
 周と男依が功績を。屢賞しあへども。斯く高市皇までして不彼の軍小向り軍の  
 司と。又山背郡小田。安斗連河加布とて。東海道の軍兵を促さめ。推授郡に  
 五百餘と土所連馬手とて。東山道の軍兵を促さめ。宮の赤谷小入の近江の朝廷  
 是とて。群に大少宗と感ひゆゆと。もる兵術とあはれ。下入とて。いそ軍旅の義小  
 神迷と肯と。大海人親小宗と得さゆ。昨日今日の鳥合の勢法令いも。合期せ。今  
 急小軍と進めて。逐に忽地擒ふと。いとの要ましく言けと。大友皇も後かひのい。

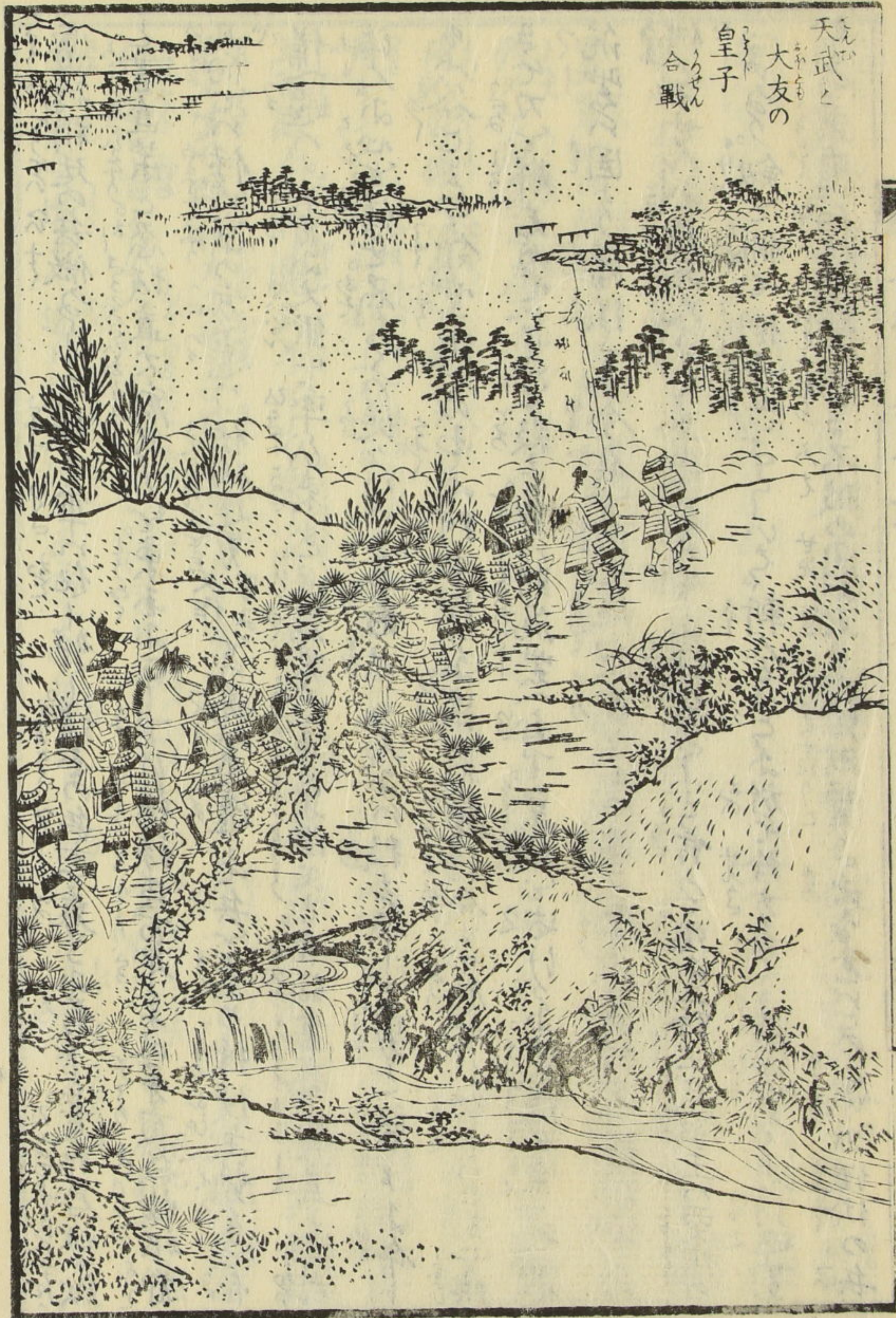
當時朝廷の兵微あり。輒く軍の起が。諸の兵士と募る小若と。韋那君親  
 と書直菜と忍坂直大麻呂と。東小下。下は穂積臣百足と。その弟而枝物部首  
 日向と。倭の京の方遣り。佐伯連男。流紫へ遣りて。兵と索め。揮使主秘と。右  
 備不遣り。不日小大軍と率ひ來。且流紫大宰栗隈王と。右佐當摩廣島と。大  
 海人小心と。修せ忍ら。に従ひ。若若たらん。の殺と。男と。磐多小命ト  
 あはれ谷と。と。領掌し。そのも。到りける。果して廣濟命小。應せ。懸手のこと。括  
 きて刀と。解あて。と。殺を男。則流紫へ。皇命と。述ける。小栗隈王。使へ。回  
 流紫の固より。藩後。今兵と。引て。近江へ。來り。その虚小宗と。異邦より。襲ひ。來ら  
 何とせん。小家の大。と。小あり。その命小。後ひ。と。言ふ。瑞小三野王。武家王。栗隈の  
 二より。劔と。佩て。側小。い。と。斬を。小。於て。冷方。と。空を。く。引返せ。  
 かく。東國へ。向ひ。懸。不。彼の。関。不。小。懸。敏。賢。と。老。ま。び。の。中。小。埋。汰。の。兵





〇五

天武と大友の皇子合戦









伴連安麻呂及び老宿那麻呂等を使して不彼官小奏けさば。官方の功績を褒め給ふ。  
 吹負を御軍に拜し、その時三輪君市麻呂、鴨君麻呂、及以高傑英士、我れもくと  
 御小物の應るるや、吹負御軍の麾下不属し。その勢を強ふるあり。その中、其量の去  
 と擇む或ひの別おとす。或ひの軍監とありて、既乃樂へとち向ひ、神田の郷へ去り  
 され、河内の軍兵未とて、故本臣財及び諸御小遣兵三百と副て、とて、神田小拒ある。  
 少麻呂と相攻不遣し。蚘夫を不手の道不遣、以ら小故、臣財平石野小次郎のと、近  
 川の軍勢高安の城、小在と、及以、即時不彼、延へとち向ひ、近川の軍兵と、其を、我れ  
 及、そのを、城ある倉と、焚捨て。その散、小逃亡り。周へ高安、小入替り、人馬の疲と、休は  
 処、小大津、丹比の、及、乃、軍兵衆く、去ると、皆て、櫓小昇りて、と、と、視、近川の軍、我れ  
 及直、韓、國が、軍勢、我れ、その、員、我れ、更、不、量、と、以、旗、旗、天、と、夜、以、馬、煙、宙、と、掠、め、劍、戟、持、時  
 の、霜、の、め、この、威、勢、統、持、り。及、中、財、法、軍、小、指、揮、高、安、と、出、衛、我、河、と、渡、り、韓

國の軍、小、對、財、が、軍、兵、猛、し、之、故、この、大、軍、我、れ、射、と、ど、突、と、も、多、と、の、茂、  
 流、が、上、ふ、り、重、なる、味、方、の、固、より、小、勢、多、く、衆、寡、更、不、故、が、く、過、半、討、り、と、敗、を、と、  
 懼、攻、不、當、其、紀、臣、大、音、が、陣、退、く、韓、王、初、度、の、軍、小、勝、り、威、勢、竹、と、彼、が、め、小、中、の、勢、  
 と、集、む、と、小、國、同、時、危、急、と、の、不、破、官、小、情、と、俟、て、韓、王、等、と、拒、り、ん、と、以、韓、王、怒、り、  
 是、と、叙、す、不、遣、意、の、見、不、故、が、く、自、害、と、失、り、り。か、ま、つ、り、威、を、揮、ひ、後、の、少、  
 兵、を、防、ぐ、と、の、事、も、その、威、勢、不、量、が、く、兵、卒、多、く、討、り、と、自、身、故、不、量、と、今、初、り、  
 二十四、度、馬、の、前、後、不、從、り、の、僅、二、三、勝、と、あり、け、し、漸、く、不、逃、且、と、垂、坂、小、が、り、通、味、方、  
 の、軍、小、令、更、不、還、て、令、紐、井、不、屯、敗、辱、と、聚、め、息、と、休、し、近、川の、軍、勢、勝、不、棄、と、相、攻、  
 ち、と、軍、と、引、て、西、小、出、當、麻、の、橋、小、韓、王、が、軍、兵、と、行、遇、り、華、池、の、辺、不、戰、り、と、我、れ、  
 備、兵、足、ら、不、給、難、養、不、及、ぶ、お、り、勇、士、奉、月、と、の、の、あ、り、と、援、て、急、不、弛、せ、韓、王、が、軍、の、換、



合らう。面も揮らびうちまきまき。この猛勢用を靡けて。口も先ふと逃る處と逐逐て  
 こゝを斬る。當下吹負制をいやく。そは兵と發するの意なり。元山と擊みたり。安山百戦  
 と殺す。勿まとも仁らる。こゝに於て觀つ。こゝに於て韓軍の味方小離と。心もい  
 ひらえ。吹負軍吹負。こゝを視て。吹負と未固と。射さめけ。矢の外に韓軍  
 率も遠と。吹負の味方の士率と。纏ひ本の吹負當り。時ふ来るの軍兵。再び揮ひ  
 考と。吹負と上下の道。向いせ。その中道。在るを拒く。廬井連。縣との入りの逞兵と  
 率と。管と衝く。吹負の軍勢。少らう。と。脱ふ。大井寺の吹負。健麻呂  
 その外。英士。僅ふ。吹負の軍の先。進。こゝを射。と。兩の。縣が。勢。懼。を。進。ま。ん。  
 こゝ三輪。高市。麻呂。上道。在る。近。近。の。軍。と。七。八。八。破。り。ち。破。り。の。勢。ひ。と。縣。  
 陣。の。後。の。方。う。勢。ひ。ま。ま。六。縣。が。軍。勢。忽。地。靡。けて。射。さ。り。の。員。と。多。く。以。縣。へ。送。と。七。の。場。  
 と。通。ま。て。白。馬。小。離。と。あ。く。も。ふ。ふ。び。深。田。へ。送。と。進。退。と。小。谷。ま。う。う。軍。吹。負。

請率。代。進。め。討。取。ん。と。ま。め。く。処。小。離。の。と。ぞ。一。大。率。と。結。遣。と。あ。い。せ。殺。と。揚。と。發。  
 矢。と。と。ち。扇。と。六。幸。ひ。か。い。渥。と。技。馬。の。畔。へ。ぞ。上。り。け。か。く。て。た。ふ。と。命。と。通。れ。是。  
 より。後。の。敵。と。未。ら。兵。將。軍。吹。負。と。不。於。て。脱。小。離。の。と。定。め。大。板。と。戦。て。猛。波。小。  
 赴。く。その。勝。の。將。等。の。と。た。う。あ。く。進。と。此。処。小。離。將。軍。吹。負。難。波。小。在。り。西。  
 の。諸。軍。の。司。小。命。ト。官。鑰。驛。鈴。傳。印。と。進。め。一。直。小。藤。浪。小。命。久。新。と。不和。の。小。  
 於。て。諸。軍。の。隊。分。と。定。め。と。村。四。男。依。書。首。根。麻。呂。和。坪。部。臣。君。も。睦。香。瓦。臣。安。  
 倍。ね。方。の。逞。兵。と。率。と。不。破。り。直。小。近。い。入。る。其。衆。近。の。軍。兵。と。其。容。份。と。と。  
 と。思。と。赤。色。と。以。て。衣。の。上。小。着。く。是。袖。符。の。始。め。た。う。別。ね。多。品。治。と。と。と。千。  
 勝。の。兵。と。授。け。近。の。刺。野。小。屯。と。中。臣。足。麻。呂。と。倉。屋。の。及。と。守。ら。ま。む。  
 其。時。近。い。山。部。と。藤。賀。臣。果。安。巨。勢。臣。比。等。小。命。ト。兵。殺。方。と。率。と。不。破。と。發。  
 大。上。川。の。濱。小。命。ト。山。部。と。果。安。比。等。と。為。小。殺。さ。る。其。率。兵。殺。方。小。命。ト。軍。陣。小。威。と。幸。ひ。う。  
 其。指。揮。の。事。あり。是。不。詳。の。事。あり。と。ま。り。



ら内乱小用て軍兵の心散り散て逃むとせむ。さふ於て果安はたより取り上りて自害を  
 失せしとぞ。筒小軍吹負乃樂山ふふとた荒田尾直木林長とつりの小軍小溜  
 くいく古来のこま本処の管く必ばとて復らへんと小軍とて然りて赤磨  
 小忌部青子人と副てとて守らへ兩人所系小入里所の橋板と穿把捕の板と区  
 小街小屯走。將軍吹負近江の野果安と乃樂山小戦ひ利と失ひて遁退し  
 時果安系へ入らんと兵小登りてとて復らへんと小街毎小捕と並ぶ。とて必志由伏兵  
 めんと入里得せしと引逃せり。近江別所田を小隅鹿深と然て倉歴小向ひら小敵  
 兵あるとあり。貝と衝と衝と衝と衝と道の野豆麻呂兵を以て殺けを復損を討  
 体老いと多し。小隅始めに入らんと死金とりのと相討と久さしと金と云ふりのの  
 悉く斬捨り。足麻呂早くとて金と云て早く免る小隅利とひて勇をば  
 真赤荊荻野へ逃る。さうのね多臣居治精兵と進めとてとて伏小隅が軍勢ゆるる。

右性左性小教札し。小隅中道とて退き。さうの後の復来らへ男依等へ近江の軍と  
 貞長の横河小戦ひ近江の野境部連某と斬る。まごの翌日奈友足と鳥影山小斬  
 東道の將軍阿麻呂等將軍吹負敗走とて。備の迹と逐んとて軍と分て撃ひ  
 来ると男依等中途小候うけて安河の溪小戦ひ社臣大はと土砂連千島と誅し直  
 小進へ瀨田小ふる大友皇親將とて瀨田の橋の西小管。曹の先での星のめく  
 御劔の林のめく。奏敵の者へ遊のめく。周声の雷小似て。軍兵幾万との人員と志し。列  
 秘を怒りて放ちかろう。夕立雨の脚より茂し。先鋒の大物智尊とのめく。まづ橋の中と交  
 斗を断墮とて長板と置き。着る所と渡る者へ板と引て墮さんと。さうの男依等  
 勢極しとて。まごめゆとす。まごは。さう大分君親臣とて勇敢无双の人あり。さうを  
 於て踊り上り。板小着る體と切る。周に計策画師とる。推臣陳中へ梯入て奏替り。さ  
 男依等が勢とて。復て。さう先小と橋と渡り。暴小潮の涌る。喚び叫びて斬捨とせん。



大軍礼とて。實小蜂林の子と散す。八方一教礼を大智智大と怒り。三塞  
 がつて。劔と拔り。逃まらぬ。と斬らんと。程殊ぐ。人逃まらぬ。今更止。然。其の  
 間。小牧方の勢進。近つ。と。智智。今。防。竟。不。橋。さ。て。斬。す。頻  
 下。迫。上。近。江。の。將。大。養。連。五。十。君。及。び。谷。直。法。手。等。と。栗。津。の。市。小。津。一。り。不。放。て  
 大。友。皇。子。通。進。入。る。へ。と。所。有。く。退。り。て。山。あ。不。限。と。自。ら。維。持。て。薨。下。る。左。右。大。臣。と。指  
 め。と。と。ま。散。る。不。亡。失。う。と。物。部。連。麻。呂。等。將。命。人。一。支。輩。皇。子。の。死。不。殉。ふ。と。ぞ。不  
 於。て。除。黨。と。搜。し。或。ひ。い。珠。一。或。ひ。い。流。一。一。舉。不。大。礼。治。ま。り。一。一。大。海。人。皇。子。還。幸。あり。て  
 則。位。不。即。身。天。武。天。皇。と。中。ま。の。号。あり。聖。運。最。著。明。け。と。專。る。外。の。三  
 人の。功。績。不。扱。り。の。る。と。は。後。世。の。功。と。賞。と。百。將。の。列。不。擇。ま。と。の。り。猶。委。た。徳。え  
 あれど。近。曾。印。り。せ。る。皇。統。國。會。ふ。い。ら。く。精。く。載。し。ま。と。は。遠。め。の。多。く。首。と。ん。

大野東人

人由皇十五代聖德太子の天平十二年廣嗣が代  
 今嘉永六年と 千百六十二年成

大野東人者 聖武帝時藤原廣嗣

反于筑紫東人義 勅往戰廣嗣敗

亡

廣嗣筑紫の謀叛をりや。元玄防僧正が。横行不。出。帝。聰。明。ふ。ま。ま。と。い。
 ど。只。管。佛。業。の。心。を。飯。せ。と。玄。防。と。は。見。え。り。と。廣。嗣。と。り。て。非。な。り。と。い。
 實。不。也。憎。の。反。叛。せ。今。不。行。て。然。う。と。後。と。帝。由。山。邊。あり。と。能。え。ん。と。
 ど。中。廣。嗣。臣。と。て。諫。の。容。ら。と。と。怒。と。竟。不。叛。と。い。は。る。と。遠。く。怨。念。を。及。
 て。中。不。玄。防。と。い。は。騰。殺。し。と。後。頭。と。良。福。寺。墮。凡。是。照。と。る。因。縁。あり。

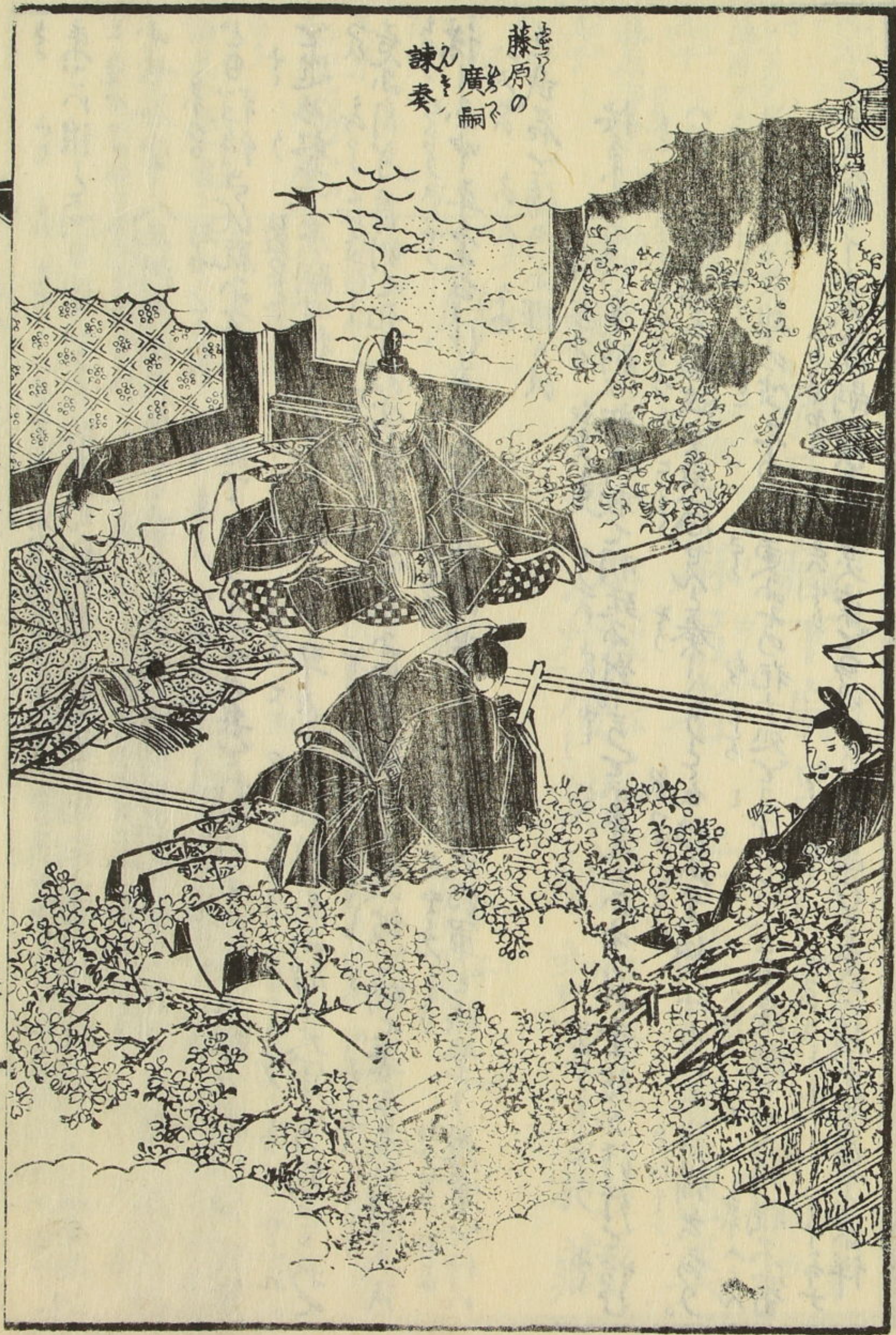


大野東人の話

玄昉の阿刀氏にて、并、阿刀氏にて、唯、誠と學ぶ。天龍二年、小入唐。智周法師、小入唐。相宗の深、青と、稟唐の帝、こを愛して、紫の袈裟を賜ふ。か、天平七年、小入唐。大、使多治廣成、小件ひ、帰朝。経、論章、疏五千餘卷。傳、來。今、猶、真、宿、寺、小、藏、以、と、七。聖武帝、是、と、信、下、封、一、百、戸、田、一、百、畝、授、翼、の、童、子、八、人、を、賜、す。以上、元、亨、か、て、聖、武、帝、の、母、藤原、夫人、宮、子、則、大、后、と、中、ら、る。この、後、考、病、と、稟、あ、ひ、人、小、見、あ、ら、と、嫌、ひ、あ、り。帝、大、小、愛、あ、り。玄、昉、と、り、て、加、持、せ、め、ら、る。玄、昉、後、宮、小、入、る。と、り、あ、ひ、て、大、后、軟、言、の、色、あ、り。尋、て、疾、病、起、る。人、帝、深、く、軟、び、ひ、ひ、篤、く、ち、の、功、と、賞、せ、さ、す。即、入、入、大、后、小、見、え、あ、り。是、ら、う、玄、昉、究、不、誘、也。屢、後、宮、小、昵、近、し。竟、大、后、小、通、せ、り。と、ぞ、故、大、后、の、窮、遇、ま、す。く、渥、し。と、小、太、宰、少、貳、廣、嗣、の、参、拜、式、部、卿、藤、原、宇、合、の、一、男、あ、り。と、り、人、を、あ、ら、と、知、り、心、苦、あ、く、あ、ら、の、餘、り。帝、小、奏、し、て、玄、昉、を、さ、げ、ん、と、し、ら、う。帝、い、と、と、可、あ、ら、ひ、玄、昉、早、く、も、是、と、知、り、屢、廣、嗣、

と、逸、せ、り。と、帝、大、小、逆、襲、あ、つ、て、廣、嗣、と、太、宰、府、の、都、督、小、賤、せ、ら、る。廣、嗣、憤、と、抱、く、と、り、と、止、と、と、得、び、筑、紫、小、執、く、か、て、肥、前、是、遠、阿、部、小、城、と、構、え、て、兵、と、聚、め、殊、殺、の、刑、大、頭、然、と、し、一、早、馬、數、次、と、お、て、在、洛、へ、進、進、し、朝、廷、大、小、孩、と、あ、り、大、野、東、人、と、大、野、軍、と、紀、飯、麻、呂、と、副、將、軍、と、東、海、東、山、山、陰、山、陽、南、海、五、石、の、軍、兵、と、徴、し、を、統、一、万、七、千、人、と、あ、り、小、附、ら、せ、ら、る。兩、將、目、を、以、て、進、登、り、ま、と、安、部、出、麻、呂、小、兵、士、に、手、と、授、け、り。この、軍、の、先、鋒、と、し、ら、う。初、て、筑、紫、近、く、越、く、と、と、太、宰、の、官、屬、小、長、谷、常、人、凡、河、内、國、道、と、り、あ、り、の、賊、兵、と、虜、小、未、つ、て、宿、軍、と、迎、け、る。宿、軍、の、諸、將、大、小、軟、び、逃、小、隊、伍、成、伍、へ、て、板、橋、川、の、溪、へ、營、ひ、廣、嗣、宿、軍、の、考、と、受、て、兵、卒、一、万、斗、を、率、ひ、て、板、橋、川、小、入、る。官、軍、小、對、ひ、木、と、橋、と、筑、紫、不、遠、也。以、て、川、を、渡、さ、ん、と、り、宿、軍、營、と、と、連、結、頻、り、不、敵、と、是、と、防、ぐ。と、小、佐、伯、常、人、月、名、若、大、喜、小、喚、え、り、い、り、す。叛、賊、小、復、ぶ、り、の、手、罪、二、族、小、及、不、ま、と、し、周、て、賊、軍、と、未、結、ら、る。處、下、廣、嗣、馬、上、小、在、り。陣、以、小、進、と、物、と、奉、ど、い、



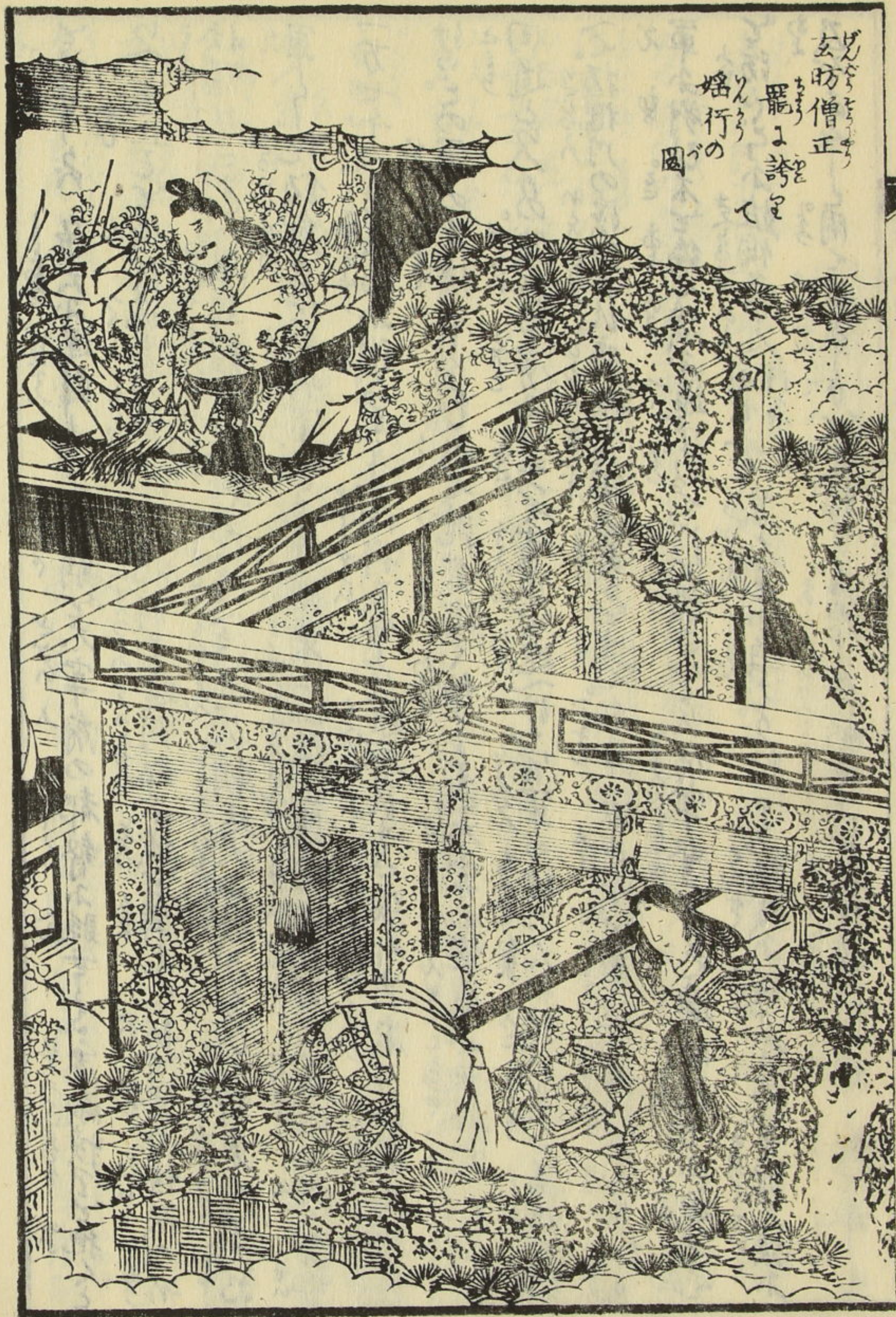


藤原の  
廣嗣  
諫奏

百將傳一

三十一

洋正藏板



女坊僧正  
麗子  
嬬子の  
圖

百將傳一

洋正藏板



来りし誰と向り果ねふ大將軍の大野東人副将の紀及麻呂との除安郡中麻呂及び  
 小長谷常人凡河内田原ありと喚えよば廣嗣忽地馬より下り再洋之罪之陳ひ然れ  
 ど日行許さび脱不官并と偽り秘し之の中兵を拒くを隠謀の故あらんと則官軍  
 と進め撃つ廣嗣心猛しとの事も疑ふ兵卒も之を敵目し勝る大軍之力竭き  
 其の自身首刎死しぬ官軍とて函不納め凱歌を唱え敵を捕り妻子及び其黨  
 誅し玉中卒定ありけよば花治へ帰陣せしむる周大將軍と始めと恩賞を行は  
 せ武名と海内不輝らば

按る小この時廣嗣が叛送敢て朝廷不討しちと雲んとおありは去時が流行せ物じ  
 へ固より下道去倭改と蓋惑せんを奏ししと云傳ふ其倭のするはち吉備あり  
 彼人當内英雄の吹えあつて更におの犯す処と云べとの事も廣嗣が心あり猶不審  
 する処ありしお廣嗣亡びてその是崇と云ふより神小崇と云或は後其人との事未詳

内大臣鎌足公二

藤原不比等

其子

藤原宇合又能岐

其子

良繼

其弟

百川

其弟

藤原藏下麻呂

あり

鎌足の孫小當

藤原藏下麻呂

天皇十六代 孝謙帝の弟の人平室宇六年  
 押勝義今赤承六世と千五百十七年成

藤原藏下麻呂者

孝謙御宇惠美

押勝反奔江州使諸將討之不利藏

下麻呂急進擊獲押勝斬之

孝謙帝女主に仲成道鏡等と愛あり頗る徳行の徳あり一とより孝  
 道不明あり且武備と忽ありの以所又 聖武帝五月おあつて崩下あり周て  
 瑞午の節命羽觴と奉めおあつて瑞午の節とあつて人倫とて百行  
 の基孝の先あり故お諸不孝毎一本と賜ひとあり天平宝字  
 元年分詔と新小藤原田と重幸毎お優劣と試と武藝と自とむと云えり



藤原藏下麻呂の話

孝謙天皇の聖武天皇の皇女ありて母ハ光明皇后あり。即位す即ち以て元年大納言仲麻呂を以て紫微令と兼多むとの人押仲麻呂ハ左大臣武智麻呂の弟ニありて為人書記お渉り或ハハ善法と阿部少麻呂お学びその術を精く以て帝の親信也。官位昇進深りありその時百官の名目と更めて中務卿とて紫微令と以て但し其政官と乾政官とハ。大臣と大師大傅大保とのハ大納言と御史大夫とのハ中衛大夫と尉とのハ世微中臺と神官官とのハ其他より名を更めし。かくて 廢帝元年仲麻呂を以て大保とあり。姓を更めて惠美と名を以て押勝と改めて。君親すやく隆り。廢帝とのハ舍人親王の弟ありて大炊王と中を以て仲麻呂ハ先の皇太子道祖王を廢して是と五此年おつて御位お即 孝謙ハ上皇とありあり以て尊號を以て上皇寶字稱徳孝謙皇帝と稱す。然も猶院中不在て國家の政事を執る。國を以て愛令のあれども

藤原藏下麻呂

るが如く押勝頻りに権勢を揮ひける。さ小扶信より削道鏡とのハあり。さび祝ひて上皇皇と大お志し押勝が衰ふ。國を以て押勝と主として憤怒ありひりりて後諸寮お疹らの禍ひあり及ふ。若し兵と與て 上皇と以て道鏡とあり。のハ其と深く巧し。時 上皇おまじして其身都督使とあり。兵を簡ひ武藝を慣令て掌らんとおろし後けられた政官の印を以て後にお兵士を募り自ら國を守り。大外記高丘比良麻呂とのハの押勝内意ありける。世の景勢を熟視て。かくて禍ひ及ぶ及ぶ。の由と明池小春をんあつと必し密にお奏し。上皇大お憤り。少納言山村王お命し。中官院の給を収めむ。押勝を以て大お怒り。其男刺傷麻呂とあり。山村王と逐る。その給を奪かす。上皇を逃鱗あつて。坂上新田麻呂と遣り。刺傷麻呂を射殺す。む。さ小放て京中の騒動。上下と返り。押勝失國。都を遣り。山村王幼す。上皇は紀紀とてその騒動を後しむ。船守直小姓向く





○世

洋玉堂藏及



道鏡  
 女帝を愛せ  
 大小騎合

百非傳一久壽卷上二

三玉堂藏及



老と小政不射斃し。わが里にけしめ押勝の勝て給へる謀才も。逸と齟齬と合お  
 せし妻も後頼と引つきて。裏の山より遁ま出進の采地へ。五城人と守治と作て  
 ぞまてり。其の甲午くも安えし。上皇則日下部子麻呂一本二佐伯伊多智一本二右馬廐  
 小兵と授けて。遂にむる。志急あり。二羽の汗馬小鞍と加。揉小揉で勢多小下。まのその  
 橋と焼捨す。押勝尙不敵と出て急ぐ。子と生憎小女性と。俱く。ま。必ひの外は  
 殆不後と。猶く勢多へ来す。程も橋と焚きて。通らん。心大不懐恨感。以高橋  
 郡小を。さ。め。故と俟んとせ。朝敵の名を。負んと。妻命ありと。必ひ。前の皇太子  
 道祖王の兄塩鏡王と新帝と。あ。ま。真光朝。猶の。之と。以て。三品小叙。その除百官  
 と。暴小摠て。精兵数千と。発し。官軍と。俟か。る。物部廣成兵と。率ひ。面も。や。攻  
 ま。ま。押勝。が。兵大不礼。を。押勝。と。して。程。と。船小。さ。り。あり。湯井。の。池  
 津と。作て。遁まんと。は。る。時。暴風。忽地。起。つ。浪。浪。宛。然。之。の。ゆ。く。波。平。ゆ。ん。と。新。け。れ。は。

水主揖取等力を戮。東夢出と備け。比敵の高嶺の山。而。於。烈。あ。て。自。在。の。火。  
 意外不吹。戻。さ。ま。高崎郡三尾。が。清。小。辛。あ。て。船。と。俟。り。陸。の。官。軍。佐。伯。三。野。大。野。  
 真本。陣。と。張。す。と。討。と。ん。と。告。め。ら。る。押。勝。法。軍。小。下。知。と。傳。え。新。帝。既。小。敵。は。あ。  
 ぞ。進。め。く。と。の。わ。ど。小。諸。軍。の。こ。ま。不。励。ま。と。佐。伯。大。野。の。二。陣。小。蒐。入。す。喚。ひ。叫。び。て。戦。ふ。  
 小。小。官。軍。と。ま。拒。え。又。四。途。路。あ。つ。て。礼。と。散。る。押。勝。得。り。と。真。光。朝。猶。の。餘。の。法。  
 將。と。勵。ま。り。ま。て。微。塵。あ。る。と。と。攻。撃。と。成。ふ。二。十。餘。度。あ。り。其。日。の。午。の。上。刻。より。申。の。下。刻。  
 小。の。を。り。官。軍。や。り。戦。ひ。力。ま。て。入。替。り。ま。す。兵。も。あ。け。ま。右。社。左。社。あ。り。あ。お。佐。伯。  
 大野の両。拍。ゆ。於。方。つ。ま。あ。る。処。小。藤。原。藏。下。麻。呂。千。勝。法。の。兵。と。率。て。暮。地。小。池。未。り。大。小。  
 叫。び。て。討。て。蒐。る。の。勢。ひ。小。押。勝。が。勢。や。う。ち。礼。ま。て。を。え。け。る。あ。ぞ。真。光。の。馬。と。池。廻。り。これ。  
 小。の。勝。軍。小。箇。計。の。荒。多。来。り。と。と。の。と。脹。る。と。あ。あ。り。引。包。て。討。と。ま。て。後。と。限。り。小。  
 下。知。ま。と。と。衆。人。礼。と。ま。と。ま。今。の。力。あ。及。び。又。押。勝。と。始。め。其。子。兩。人。と。の。勝。の。人。小。不。来。て。



遁き去らんとする處に佐伯大野の兩勢も藏下麻呂が援ふよりその勢ひとけられぬ。敗卒を不集まりて水陸より攻むる。是も於て押拂ひを防ぐべき計に殊に軍營多く討せし進退更勝とて官軍の中なる石村石楯押勝が船不瀬を入て竟に擒ふるなり。是も因て其ふる。真光朝獨りこみ死し。且押勝が妻子及び地燒王等みみ擒ふ。於てその員三十餘人誅ふ。伏しとら丸の平らぐ。佐伯大野が力致しりとも。其の藏下麻呂が功よりて。釋故あり治まけし。法人とて感賞せり。

周ふり。上皇と。當今の中睦く。以竟帝と。陸路を廢して。上皇重祚也。則稱徳天皇と申ひ是あり。帝と。陸路を廢せし。藏下麻呂とて。護送し奉る。其の頃智勇の人多けし。と。あのみ及ぶるなり。周て百羽傳の一人を擇み。挙げられし。ゆもまに宜あり。

阿智使主の後  
犬養連の子  
荊田麻呂

坂上荊田麻呂

人自皇十九代 光仁帝の弟の人  
今嘉永六年を千八十九年と成

陸奥鎮守將軍  
の職原鈔に按  
ずるに陸奥公  
鎮守府  
相當從五位上  
非武略之卷者不  
當其任仍代々  
將軍者鎮守府  
將也

坂上荊田麻呂者田村麻呂父也押勝  
謀逆之日受高野天皇之命射殺押  
勝子訓儒麻呂當高野天皇之前  
也道鏡有舐鞭之心荊田麻呂知之  
告其奸計光仁帝賞之授從四位上  
為陸奥鎮守將軍

按に職原鈔に 聖武天皇御宇陸奥公法守を置初將軍を以て遣す云とあり



坂上荻田麻呂の話

荻田麻呂の考謙上皇の命と受て。惠美押勝が子訓儒麻呂を討斃す。既小藏下麻呂  
 が條下にりて。かゝる後道鏡の権勢を慕ふ。和氣の清麻呂と之を依り使。皇統城  
 崩んとけさる事あり。これ因て帝由美官の行幸あり。道鏡怪を和と献。御  
 老の除を和の和と伺ひ食。かかす。群臣天智の御孫白壁とて御位即。是を光  
 仁天皇と秘奉。荻田麻呂道鏡が隠謀を知つて。是を徳大寺小吉と。天皇獲る。別道  
 鏡と下野を茶油もの別處とて。依て死流せり。天功ありて。後將軍を拜せり。

按ふ国史略ふいぐ。當時大臣不能。道鏡至祖宗廟。數其罪。而後正刑。是乃  
 世之遺憾也。と云ふ。本朝の傷宗者。備と大臣。在て是。と忽然。ひひる。新以。あん

日本百將傳一多諸卷之貳畢



